

学力向上のための3つの視点・5つの取組

西部教育事務所 (H25.10)

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、校内研修等において以下の「3つの視点」「5つの取組」を再確認して実践し、子どもの確かな学力の向上に努めましょう。



主体的に学ぶ子どもを育てましょう

毎日の授業において、学習課題の解決に向けて自分の考えを広げたり深めたりするとともに、家庭学習に自ら取り組むことを通して、学びの楽しさを味わいながら、基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を身に付ける子どもを育てましょう。

視点1 授業改善の充実

取組①

子どもが考える場면을意図的に作りましょう

子どもが考えたいくなる学習課題を工夫したり、子どもの発言や記述などに対して「なぜそう考えたのですか？」と問いかけたりするなど、子どもが主体的に考える場면을意図的に作りましょう。

取組②

指導と評価の一体化を図りましょう

目指す子どもの姿を評価項目に示して授業を行い、子ども一人一人の学びを確実に見取るとともに、その子に応じた手立てを講じるなど指導と評価の一体化に努め、本時のねらいを達成しましょう。

取組③

子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう

子どもの学習状況を踏まえ、補充的な課題を与えて知識・技能を確実に身に付けさせたり、発展的な課題を与えて思考力等をさらに伸ばしたりするなど、子ども一人一人を伸ばしましょう。

視点2 指導体制の充実

取組④

少人数指導の充実や教科担当制に取り組みましょう

少人数指導担当教員等が中心となって組織的に授業づくりを行ったり、小学校高学年を中心に教科担当制を積極的に実施して教師の専門性を生かした授業を行ったりするなど、子どもにより質の高い授業を提供できるように努めましょう。

視点3 家庭学習の充実

取組⑤

自ら学ぶ家庭学習の習慣を身に付けさせましょう

家庭学習のねらいや内容について、教職員間で共通理解を図るとともに、「家庭学習の手引き」等を活用して保護者への啓発を図ることにより、児童生徒が自ら学ぶ習慣を身に付けられるようにしましょう。

<活用しましょう>

「はばたく群馬の指導プラン」

(H24. 3 群馬県教育委員会 発行)

「はばたく群馬の指導プラン(実践事例集)」

(H25. 3 群馬県教育委員会 発行)

「平成25年度 全国学力学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例(小学校 国語 算数)」

「平成25年度 全国学力学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例(中学校 国語 数学)」

(H25. 9 国立政策研究所教育課程研究センター 発行)

視点1 授業改善の充実 取組①

子どもが考える場면을意図的につくりましょう



今回の全国・学力学習状況調査の結果において正答率の高かった学校では、日常の授業において、子どもが考えたい学習課題を工夫したり、子どもの思考を促す発問を工夫したりするなど、子どもが考える場면을意図的につくっています。

導入の場面で、子どもが考えたい学習課題を工夫して与えましょう

<工夫例>

- 日常生活と関連付けた学習課題を提示して、実感をもたせて学習をスタートする。
- 子どもの知的好奇心をくすぐる実験を行って、学習意欲を高める。 等

子どもの考えを広げたり深めたりする発問を工夫しましょう

ポイント1

考えの根拠を明確にさせましょう

子どもの発言や発想に対しての根拠を問うことで、何からこの考えが思いついたのか、どのようなことと結びついているかなど、子どもの考えを明らかにしていきます。

発問例 (子どもの考えを聞いて・・・) 「なぜ、そう考えたのですか？」



ポイント2

友だちの考えと自分の考えを比較して、自分の考えを広げたり深めたりしましょう

友だちの考えと自分の考えを比較させ、違いに気づいたり、疑問を解決したりするなど、子どもの考えを深めたり広げたりしていきます。

発問例 「Aくんの考えとあなたの考えの違いは何ですか？」



ポイント3

いくつかの考えをまとめて、自分なりの結論をもたせましょう

子どもたちのたくさんの考えを引き出すことにより、友だちの考えの良いところを取り入れながら自分の考えをまとめるなど、自分なりの結論をもたせていきます。

発問例 「みんなの意見(考え)をノートにまとめましょう。」



ポイント4

子どもの考えを積極的に認め、考える楽しさを味わわせましょう

「なるほど。」「いいね。」など子どもの発言やつぶやき、思いや考えに賛同したり、「いいところに気がついたね。」「すばらしい。」など答えだけでなく思考の過程を認めたりするなど、子どもに自信を持たせ、考える楽しさを味わわせましょう。

発問例 「自分の考えがしっかり発表できたね。」
「理由もはっきりしていて、わかりやすい発表だったね。」



意図的な発問で子どもの思考を深めている授業例

小学校5年生 算数 「比べ方を考えよう（平均）」

サッカーの試合の得点（1組）					
試合	1試合	2試合	3試合	4試合	5試合
得点	1点	5点	3点	0点	3点

たけしくんのサッカーチームが試合をしました。
その得点は表のとおりです。
1試合に平均何得点したことになりますか。

Aくんの 式： $(1+5+3+3) \div 4 = 3$
考え 答え 3点

Bさんの 式： $(1+5+3+0+3) \div 5 = 2.4$
考え 答え 2.4点

1試合の平均を求める学習において、2人（Aくん・Bさん）の考え方をもとにして、自分の考えを深めていく場面です。



子どもの考えをもとに授業を進めている例

教師：2人の考えから、気付いたことはありますか？

子ども：答えが3点と2.4点で違っています。

教師：そうだね。気付いた人？（は～い。）
なぜ、答えが違ってしまったのかな？

子ども：式が違っているからだよ。

教師：なるほど。式のどこが違うのかな？

子ども：0点をたしているところかな。
子ども：4で割ったり、5で割ったりしている。

教師：いいですね。もう少し詳しくすると？

子ども：Aくんは、0点をたさないで4で割っていて、
Bさんは、0点をたして5で割っています。

教師：なるほど。よく気付きましたね。
Aくんは、どのように考えたのかな？

子ども：得点が入ったのが4試合で得点の合計が12点
だからこの式になったと思います。

教師：Bさんの考えはどうだろう？

子ども：全部で5試合だから、5試合分の得点を全部たして、
試合数の5で割ったんだと思います。

教師：なるほど。2つの考えが出てきたけど、
何か気付いたことはありますか？

子ども：0点の試合を入れるか入れないかでわる数が4
になるからになるか違ってくるんだなあ。

子ども：得点は入っていないけど、試合はしたのだから
0点の試合も含めて考えなくちゃ。

教師：いいところに気がついたね。
この2人の考えを参考にして、自分の考えをまとめてみましょう。

教師が説明してしまう例



教師：2人の考えから、気付いたことはありますか？

子ども：答えが3点と2.4点で違っています。

教師：2人の式が違っているから答えが違っているんだよね。式のどこが違うのかな？

子ども：0点をたしているところかな。
子ども：4で割ったり、5で割ったりしている。

教師：Aくんは、いくつで割ってますか？

子ども：4です。

教師：得点が入った4試合の合計を出して4で割って
答えが3点になったんだね。
Bさんは、いくつで割ってるかな？

子ども：5です。

教師：5試合全部の得点の合計をして5で割って
答えが2.4点になったんだね。
2人の考え方の違いがわかったかな。
得点が0点の試合を入れて求めるか、
入れないで求めるかだね。
全部で何試合したのかな？

子ども：5試合です。

教師：5試合だよ。全部の試合の得点を合計するのだから、
0点の試合も含めて考えないとだよ。
だから、得点の合計は、
 $1+5+3+0+3=12$ 。
それを試合数の5で割って
 $12 \div 5 = 2.4$ 。
答えは2.4点だね。

子どもに、自分の考えを自分の言葉で語らせて、思考を深めさせましょう！



視点1 授業改善の充実 取組②

指導と評価の一体化を図りましょう！



本時のねらいを達成できる授業は、子どもが思考を深めることができる学習課題が設定され、個に応じた適切な手立てが講じられている授業です。子どもの姿を具体的にイメージして評価項目を設定し、一人一人の学びに応じた支援ができるような授業づくりに努めましょう。

指導と評価の一体化を図る授業づくりのポイント

1. ねらいの設定

2. 目指す子どもの姿の明確化

本時のねらいを達成できた子どもの姿を、具体的な記述や発言の姿でイメージしましょう。

3. 評価項目の設定

ねらいを達成した子どもの記述や発言に含まれるべき要素を洗い出して、評価項目を設定しましょう。

4. 学習の計画

目指す子どもの姿の具現化に向けて、既習の学習内容を活用して課題を解決できるような学習活動を設定しましょう。（取組③へ）



一人一人の学びを予想し、つまずきに応じたり、発展的に考えさせたりするための手立てを用意しましょう。

ポイント！

5. 授業実践
（取組③）

子ども一人一人の学習状況を見取り、個に応じた支援を行い、課題の解決に向けて全ての子どもが学習に取り組めるようにしましょう。



※子どもの姿を具体的にイメージした評価項目は、授業中に子どもを見取る上で有効に働きます。

ポイント！

6. 振り返り

学習指導後に子どもの学習成果物を基にねらいの達成状況を把握し、必要に応じて補充的な学習を設定しましょう。また、評価の結果を基に、次時の支援計画を見直すなど、指導の改善に生かすことも大切です。

視点1 授業改善の充実 取組③

子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう



今回の全国学力・学習状況調査の結果から、他県に比べて本県は、「正答率の高い子どもが少ない」ことが明らかになりました。1単位時間の授業において、子どもの学習状況を確実に見取り、個に応じた課題を新たに与えるなどの手立てを講じることで、子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう。

子ども一人一人の学習状況を確実に見取りましょう

つまずきのある子どもへの指導・支援の工夫だけではなく、授業中における「おおむね満足できる」、「十分満足できる」状況の子どもについても、発言・記述・表情などから学習状況をしっかり見取りましょう。

確実に見取るためのポイント



どの場面で、どのような評価方法で評価するかを明確にしておく。

中心となる学習活動における子どもの具体的な姿を明確にしておく。

ノートやワークシートに、どのような記述があれば、おおむね満足な状況と判断するかを明確にしておく。

確実に見取り、子ども一人一人に適切な手立てを講じましょう。

発展的な課題や補充的な課題に取り組ませましょう

発展的な課題や補充的な課題に取り組む場や時間を工夫して、子ども一人一人の資質・能力を伸ばしましょう。

取組例

- 本時のねらいを達成した子どもには、見いだした方法が他でも成り立つかどうかを考えさせたり、難易度の高い課題を段階的に用意して選択して取り組ませたりするなど、発展的な課題に主体的に取り組ませる。
- 授業の後半で、子どもを習熟度別に2つのグループに分け、それぞれの習熟度に応じた課題に取り組ませる。
- 授業中、つまずきのある数名の子どもを集めて、補充的な問題に取り組ませたり、ていねいに説明したりするなど、本時のねらいの達成に向けてつまずきを解消する。

視点2 指導体制の工夫 取組④

少人数指導の充実や教科担当制に取り組みましょう



今回の全国・学力学習状況調査で正答率の高かった学校の中には、少人数指導担当教員が中心となって組織的に授業づくりを行ったり、小学校高学年を中心に教科担当制を実施して、教師の専門性を生かした授業を行ったりするなど、質の高い授業づくりに努めている学校が見られました。

少人数指導の担当者がリーダーシップを発揮し、共通理解のもと授業を進めましょう

ポイント①

新しい単元に入る前に、少人数指導担当教員が中心となって打合せを行い、子どもの実態や単元に応じて指導形態を工夫するとともに、ねらいの達成にむけた手立てや評価項目・評価方法等について共通理解を図りましょう。

ポイント②

少人数指導を担当している教師が日常的に情報交換を行い、効果的な手立てや教材等を共有するなど学び合うことで、少人数指導全体の授業の質を高めましょう。

ポイント③

少人数指導を担当している教師が協力して評価テストの問題を作成すること等で、身に付けさせたい知識・技能や高めたい思考力・判断力・表現力等を明確にすることにより、学習集団に応じた授業の質を高めましょう。



子どもたちにとって、どのような学習集団（習熟度別、興味・関心別、T.T等）が一番効果があるか、また、分かれた集団ごとに、どんな授業をすればよいか、もう一度、検討し直す必要がありそうですね。

教科担当制を実施して教師の専門性を生かした授業づくりを進めましょう

メリット①

担当する教科等の数が少なくなるため、担当する教科等に時間をかけて教材研究を行うことができ、より児童の実態に応じた授業を行うことができます。

メリット②

教師が、複数の学年の学習指導にかかわることにより、指導内容等の系統性を踏まえて指導できるようになり、授業の質が高まります。

こんなメリットもあります・・・

1つの学級に複数の教師がかかわることで、子どもの実態を多面的に、そしてタイムリーにとらえることができ、組織的な生徒指導が行えます。



担任の先生が学級の課題を一人で抱え込まなくてすむのも教科担当制のよいところですね。

自ら学ぶ家庭学習の習慣を身に付けさせましょう



今回の全国学力・学習状況調査結果（質問紙）から、家庭学習の課題の与え方等について教職員で共通理解を図っている割合が低いことが分かりました。また、与えられた課題には積極的に取り組むが、自分で計画を立てて勉強に取り組むことは苦手であるという傾向も明らかになりました。

校内研修等で、以下のポイントや取組例を参考にして全教職員で家庭学習について見直し、子どもが自ら学ぶ家庭学習の習慣を身に付けられるようにしましょう。

ポイント① 学校としての家庭学習の方針を明確にする

家庭学習に対する**学校としての方針**を明確にするとともに、職員間で**共通理解**を図り、家庭学習が習慣化されるように指導しましょう。



家庭学習について教職員が共通理解を図るポイント

- 家庭学習を習慣化する意義
- 教科・学年等に応じた内容や量
- 習慣化を図るための指導の進め方
- 評価・点検の方法
- 保護者のかかわり方

<指導例>

○二者面談で、家庭学習の様子を聞き、励ましやアドバイスを行う。

○学級活動で、各自の家庭学習の内容等について、情報交換する。

○帰りの会で、家庭学習のスケジュールを立てて実践させる。

■ 発達段階に応じた家庭学習のイメージ例

	小学校			中学校
	低学年	中学年	高学年	
意義	習慣化	自分なりの学び	計画的・主体的な学び	
評価・点検	励まして習慣化を	励まして自主性を	励まして夢や進路へのチャレンジを	
内容	与えられた課題の比率大	自主学習の比率 増	自主学習の比率大	自主学習中心
比率	全員に同一の課題 ・ 個人差に応じた課題			自分で選択した課題

ポイント② 保護者と連携して、子どものやる気を引き出す

学校全体で確認した家庭学習の方針を『家庭学習の手引き』としてまとめて保護者に伝え、理解と協力を得られるようにしましょう。

保護者には、「**生活のリズムを整える**」「**学習に取り組む雰囲気をつくる**」「**努力を認め励ます**」の3つについて協力を得られるように、PTA総会や保護者会など様々な機会を使って説明しましょう。

家庭学習の手引き

効果・意義
時間の目安
取り組む内容例
保護者の関わり方



保護者

ほめ言葉やノートへのコメントの方法を示してもらったので、早速やってみました。子どももほめられることが増えて、自分から家庭学習に取り組むようになってきました。

宿題は「遊ばせないために必要」としか思っていなかったのですが、自分で考えてやり遂げる力が育つように、親として励ましていきたいです。